

95. 水の無い水槽

0910920107 佐藤静香
指導教員 市川尚紀 准教授

照明 珊瑚 自然素材 水槽 リラックス効果

1. コンセプト

(1) 水槽の役割も併せ持つ照明

水槽は見る者に様々な効果をもたらす事で知られている。リラックス効果、ストレス緩和効果、好奇心向上効果などである。単なるインテリアとしてだけでなく、新しいコミュニケーションをもたらしたり、話題の種にもなる。しかし、水槽で生体を飼育する事は容易でない場合がある。例えば、マンション・アパートなどペット禁止の賃貸住宅が挙げられる。仮にペット可でも、水槽に設置したモーターの振動音や旅行中の世話、水替え、病気になった生体の管理・・・などの面倒事が発生する。そこで海の素材を使い、気軽に水槽としての効果も楽しめる照明を作ることにした。

(2) 自分以外の人が採集したもので何ができるのか

素材の採集には自分以外の数人に協力してもらった。今回は竹富島にて、各々が好きな物を好きなだけ拾うように指示をした。

当然、海なので浜に打ち上げられた珊瑚や貝が多く集まる。それらを全て使い、竹富島の場合ではどんなものが出来上がるのか、島固有の素材の特徴を生かし、最初にする物を決めて採集するのではなく、素材を採集した後で何を制作するかを考えた。いつもとは違う手法を取ることによってどんなアイデアが生み出されるのか、実験的に制作を試みた。

(3) 自然素材で照明を作り、海の重要性を静かに主張する。

広い海には、食卓に並ぶような魚介類や海藻類の他にも、様々な生き物が存在し、多様な生態系が形成されており、私達の生活とも直接的・間接的に関りを持っている。海の生物多様性は、食の提供だけでなく、気候の調整や水質の浄化、レクリエーションなど、私達の生活を支えている。私達も海の生物が進化したものである。海は私たちの母であり、故郷である。しかし、昨今の環境汚染によって海はかつての美しさを失いつつある。

そこで、普段海に行かない人でも、海の生物多様性の重要性を知り、忘れることの無いよう、海の遺した遺産を使い、身近に目にすることができる照明を作る。



写真 1 珊瑚の照明

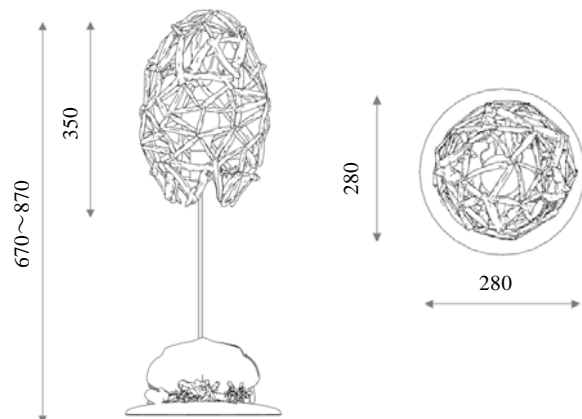


図 1 立面図・平面図

A fish tank without water

SATOU Shizuka

環境設計研究室

2. 制作概要

2.1 素材の漂白

使用する素材は既に白化していたが、若干黒ずみが目立つので漂白剤で3週間ほど漂白した。



写真 2 漂白後の素材

2.2 シェードの組み立て

まず、針金を変形させて骨組みを制作する（写真 3）。そして、針金の土台に、グルーガンを用いてホットメルト接着剤で土台となる最下部に、素材を外れないようにしっかりと接着する（写真 4）。その後も同じ要領で素材を積み重ねるようにして組み立ててゆく。強度を出すために、なるべく三角トラスに近い形で組み立てた（写真 5）。仕上げに、石材用接着剤で接着部分を補強した。



写真 3 骨組み



写真 4 下部



写真 5 トラス構造

珊瑚は石のように重いため、荷重に耐えきれずに何度か組み立てたものが壊れてしまった（写真 6）。壊れないために、下部の部品は重いものを使い、上部にかけて軽い部品を使うことと、品質の良い接着剤を使い、接着剤の接着面積を大きくした。



写真 6 壊れたシェード

2.3 土台部分の制作

土台部分には丈夫なアカシアの木を使い、素材の白さを引き立たせるために黒い塗料で塗装した。土台のメインとなる大きなシャコ貝は、垂直に立たせるために、シャコ貝の周辺に他の小さな貝や、使わなかった珊瑚を接着した。（写真 7）そして、海の底に佇むシャコ貝を表現するために、青色の LED（発光ダイオード）を内蔵した（写真 8）。



写真 7 土台部分



写真 8 LED が発光している様子

3. まとめ

水槽で生体を飼育する事が容易でない人でも水槽の癒しの効果を得られるように、海の素材を使うことによって、気軽に水槽としての効果を楽しめる照明を作ることが出来た。また、最初に作る物を決めて採集するのではなく、採集した後で何を制作するかを考え、いつもとは違う方法を取る事によって、新たな発想を得ることが出来た。